

特集

～友好都市提携20周年記念～

“川崎市民交流団 リューベック市・ザルツブルク市訪問”



(公財)川崎市国際交流協会企画の川崎市民交流団がドイツ・リューベック市とオーストリア・ザルツブルク市を訪問しました。

ドイツの北方、バルト海沿岸の海運商業の拠点として発展を続ける歴史と文化に富んだリューベック。映画「サウンド・オブ・ミュージック」のロケ地でもあり、毎夏開かれるザルツブルク音楽祭でも有名なザルツブルク。さらに、「モトスミ・ブレーメン通り商店街」と友好提携しているドイツの「ブレーメン・ロイドパサージュ商店街」やオーストリアの首都ウィーンを訪問しました。



リューベック市: 1987年より旧市街全体が世界遺産に登録されています



ウィーン: 歴史的な建築が数多く並んでいる旧市街



ザルツブルクの朝市



ブレーメンの音楽隊像



ザルツブルク市長へ能面「翁」を献上する交流団・団長

ザルツブルク市での市民交流にてお手伝いいただいたセルナー足立啓子さんからのメッセージ

私は、去年までザルツブルクの領事館で勤めるかわら、日本語を教える活動を続けてまいりました。ドイツ人の高校生と大学生を引率して、この20年間で3回川崎市をお訪ねし、川崎市の方々が訪問された折には、通訳のお手伝いをしました。この両市の市民レベルの交流は、一般市民がお互いを理解する大変貴重な機会でした。私個人としては、川崎を訪問した際、いろいろなところをご案内いただき、川崎大師へお参りできたことが忘れられない思い出です。卒業生たちは、宇宙開発や物理学の研究など、さまざまな進路に進んでいますが、皆が将来、日本語を学び、日本文化に触れたことで、日本のよき理解者になることは間違いありません。

交流も20年経つと世代が変わろうとしていますが、これからも日本文化を愛するオーストリア人や、西洋音楽などを愛する日本の人々により、両市の交流が続いていくことを願っております。

深まった市民交流～音楽を通じた絆～

ごく普通の生活を営んでいる一人の川崎市民が他国の市民と交流する旅に素朴な疑問、好奇心、そして感動感激という宝物がありそうだ。

壮麗な教会の塔から360度見渡せば、市民から大切に守られている歴史ある美しい街並み、川崎市と同じ工業港湾都市とは思えなかったリューベック市。石造りの良き時代の文化が脈々と流れている世界で最も美しい世界遺産の街ザルツブルク市。あちらこちらでゆったりとお茶、食事を楽しんでいる急がない生活を見た。

ミラベル宮殿でのレセプションパーティではザルツブルク、川崎の両市長の挨拶や歓談。翌日は、ザルツブルク大学教授セルナー夫妻のご尽力で地元の皆さんとのフォークダンス、上を向いて歩こうの合唱、持参した和菓子と和服姿の団員によるお点前、各団員持参の記念品の贈呈など、和気あいあいの交流会となった。

言葉、宗教、国籍、様々な差異を乗り越えて向き合い、交流し対話し、理解する努力、信頼関係を築き、深めていく大切さを感じた。

市民交流団・団長 佐藤三郎さん

お茶、「上を向いて歩こう」合唱などを披露



ミラベル宮殿のマーブルホールにてオーストリアのダンスを習う

リューベックでの大型帆船やブレーメンの活気ある商店街等、市民交流団ならではの体験が印象的です。特にザルツブルクで踊ったフォークダンスのステップが、映画「サウンドオブミュージック」でトラップ大佐とマリアが踊ったダンスにもあると発見した時には、オーストリア文化を現地の方に直に教えていただいたことが実感され、感慨ひとしおでした。

市民交流団・副団長 吉田喜恵子さん

記念コンサートin川崎に行きました

友好都市提携20周年を記念し、3つのコンサートが川崎市内で行われました。その中のひとつ、ラゾーナ川崎プラザソル(10月15日/月)でのコンサートに行ってきました。

このコンサートはザルツブルクのハインズ・シャーデン市長の表敬訪問を受け、オーストリアよりピアニスト、クリストフ・トラクスラー氏をお迎えし、日本の若手音楽家、麻生優希(フルート)さん・毛利文香(ヴァイオリン)さんとの共演でした。

川崎市長からは、ザルツブルク市よりミュゼ復旧のために贈られた寄付金のお礼。ザルツブルク市長からはミュゼを見学し、「一番美しい工事現場・復興事業を通して国民の力を感じた」との感慨深いお言葉がありました。

演奏はザルツブルクが生み育んだモーツァルトの曲を中心に、フルート協奏曲・ヴァイオリン協奏曲のデュオ、ピアノのソロ演奏があり、前途を嘱望されている若手音楽家たちの優れた技量に拍手喝さい。至福のひと時でした。

(取材・文:編集ボランティア 福地直子)